

2022 年度 第 2 回医療安全監査委員会 結果概要

日時：2023 年 2 月 2 日（木）13：00～15：00

場所：国立国際医療研究センター病院 研修棟 5 階大会議室及び Teams にてオンライン併用

出席者：

（外部委員）	山本 知孝	東京大学医学部附属病院環境安全管理室長	
	細川 大輔	細川大輔法律事務所弁護士	
	島 宏一	グリーン株式会社取締役監査等委員	
（内部委員）	武井 貞治	国立国際医療研究センター企画戦略局長	
	竹林 経治	国立国際医療研究センター理事長特任補佐	
（院内参加者）	杉山 温人	病院長	原 徹男 副院長・医療安全管理責任者
	高本 真弥	医療安全管理部門長・室長	木村ひろみ 医療安全管理者
	百武 弘志	医薬品安全管理責任者	深谷 隆史 医療機器安全管理責任者
	大曲 貴夫	国際感染症センター長	堀井 久美 専従感染管理認定看護師
	河合 公生	総務課長	高田 賀将 患者相談専門職
	伊藤 哲麻	医療安全管理室事務係長	

■ 報告・審議事項

- ・ 医療安全管理室構成員について
- ・ 医療に係る安全管理のための委員会（医療安全管理委員会、リスク分析委員会、医療機器安全管理委員会、透析機器安全管理委員会、医薬品安全管理委員会）
- ・ 医療安全管理部門への報告（インシデント・アクシデントレポート、患者影響レベル 3b 以上事例、患者影響レベル 3a 事例、患者影響レベル 2 以下事例、合併症事例）
- ・ 事例検討会
- ・ 外部への報告（医療事故情報収集等事業、事故調査委員会）
- ・ 医療安全に係る研修実施状況
- ・ 第三者評価
- ・ 医療安全に係る取り組み（医療安全管理委員会院内ラウンド、リスクマネージャー会議、医療安全パトロール、NCGM 秋の医療安全推進週間、転倒・転落対策チーム、個人情報の漏洩に関する取り組み）
- ・ 未承認新規医薬品等評価部報告
- ・ 高難度新規医療技術評価部報告
- ・ 紛争事案
- ・ 院内感染管理室報告

■ 講評

- ・ 医療事故に該当するかどうかの判断について、既に検討のプロセスは見直されていることが伺えるが、今後も外部者の意見を募ることや医療事故調査・支援センターへ相談を行うなど適切な判断が行える体制を構築し、他医療機関の模範となるように努めていただきたい。
- ・ 医療安全管理部門の組織体制が強化された点は評価できる。しかし個人情報、情報セキュリティなど病院を取り巻くリスク要因は拡大している為、担当部署は異なるかもしれないが病院として各種のリスクに対応していく体制の整備を進めていただきたい。
- ・ 職員教育について、Eラーニングの受講率が高いようだが、職員研修は重要であるため引き続き取り組ん

でいただきたい。

- ・ インシデントレポート報告件数について、昨年と比べて医師からの報告が半減しているようであるため、改めて推移を確認し、報告件数が増加するような働きかけを行っていただきたい。また次回の委員会時に報告件数の経時的な推移を提示いただきたい。
- ・ リスクマネージャー会議への出席について、恒常的に欠席となっている診療科・医師について、参加率の向上に向けた対策を進めていただきたい。
- ・ 新型コロナウイルスに対する対応や抗菌薬の出荷制限が生じた中での対応は適切に行えていると評価できる。
- ・ 手指衛生の実施率の分析について、手術室など特定の部署の実施率が低いため、対策を講じていただきたい。
- ・ カルバペネム系抗菌薬開始前の培養提出状況について、血培2セット未提出率の減少に向けて引き続き取り組んでいただきたい。

【指摘事項への対応】

- ・ 医師のインシデント報告について、報告必要事例を再周知し、報告を促す。
- ・ リスクマネージャー会議の出席について、これまで部署単位での確認を主として行っていたが個人の出席も重視することを周知し、特にリスクマネージャーの役割を明確にする。ジュニアリスクマネージャー制度の見直しを行う。